2023年４月12日

各　位

会社名　株式会社ハピネス・アンド・ディ
（東証スタンダード・コード３１７４）
代表者名　代表取締役社長　　田　篤史
問合せ先　専務取締役　　前原　聡
電話番号　０３－３５６２－７５２５

特別損失の計上及び第２四半期業績予想と実績との差異並びに連結決算移行に伴う2023年８月期通期連結業績予想の公表、同個別業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2023年８月期第２四半期累計期間（2022年９月１日～2023年２月28日）において、特別損失を計上いたしましたのでお知らせいたします。また、2023年３月14日に公表いたしました同期間の業績予想と本日公表の実績に差異が生じましたのでお知らせいたします。

あわせて、連結決算移行に伴う2023年８月期通期連結業績予想を公表するとともに、2022年10月14日に公表した同個別業績予想の修正について、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．特別損失（減損損失）の計上

当社における、過去損益が不振で、将来においても期待される利益が確保できない見通しの４店舗について、固定資産の減損に係る会計基準に基づき、減損損失40,082千円を特別損失に計上いたしました。

２．2023年８月期第２四半期業績予想と実績との差異

2023年８月期第２四半期（累計）連結業績予想と実績との差異（2022年9月1日～2023年2月28日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	１株当たり四半期純利益
前回発表予想（Ａ）	百万円 6,805	百万円 40	百万円 29	百万円 9	円　銭 3.53
実績（Ｂ）	6,786	28	16	△48	△19.26
増減額（Ｂ－Ａ）	△19	△12	△13	△57	－
増減率（％）	△0.3	△30.0	△44.8	－	－
（ご参考） 前期第２四半期実績	－	－	－	－	－

（注）当第２四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前期第２四半期実績は記載しておりません。

2023年８月期第２四半期（累計）個別業績予想と実績との差異（2022年9月1日～2023年2月28日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	１株当たり四半期純利益
前回発表予想（Ａ）	百万円 6,727	百万円 25	百万円 14	百万円 1	円　銭 0.39
実績（Ｂ）	6,707	43	33	△26	△10.30
増減額（Ｂ－Ａ）	△20	18	19	△27	－
増減率（％）	△0.3	72.0	135.7	－	－
（ご参考） 前期第２四半期実績	7,508	208	218	124	49.17

（差異の理由）

2023 年３月 14 日公表の予想と実績の差異につきましては、売上高はほぼ予想通りとなりました。営業利益、経常利益につきましては、連結業績ではＭ＆Ａ取得関連費用等の計上により前回予想を下回り、個別業績では賞与引当金の見直し等により前回予想をやや上回ることとなりました。また、上記１．のとおり、連結・個別ともに減損損失による特別損失を計上したことから、四半期純利益は連結・個別ともに前回予想を下回る結果となりました。

３．連結決算移行に伴う 2023 年８月期通期連結業績予想の公表

当社は、2022 年 11 月 28 日公表の「株式会社ＡｂＨｅｒｉ（アベリ）の株式の取得（子会社化）に関するお知らせ」のとおり、2022 年 12 月に同社を子会社化したことに伴って、2023 年８月期第２四半期から連結決算に移行することとなりました。それに伴う、2023 年８月期通期連結業績予想を公表いたします。また、2022 年 10 月 14 日に公表いたしました個別業績予想を修正いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

2023 年８月期通期連結業績予想（2022 年９月１日～2023 年８月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
今回発表予想	百万円 13,374	百万円 8	百万円 △18	百万円 △94	円　銭 △37.00

４．2023 年８月期通期個別業績予想の修正

2023 年８月期通期個別業績予想の修正（2022 年９月１日～2023 年８月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（Ａ） （2022 年 10 月 14 日）	百万円 14,842	百万円 401	百万円 375	百万円 168	円　銭 66.06
今回発表予想（Ｂ）	13,027	△31	△54	△104	△40.94
増減額（Ｂ－Ａ）	△1,815	△432	△429	△272	－
増減率（%）	△12.2	－	－	－	－
（ご参考） 前期実績	13,608	190	191	89	35.36

（修正の理由）

通期業績予想につきましては、公表時点では新型コロナウイルスの影響が落ち着くものの、ロシア・ウクライナ情勢や円安等の不安要素もあり、個人消費は横ばいの傾向が続くものと想定しておりました。しかしながら、急激な円安進行や資源価格の上昇等により諸物価の高騰が続き、電気料金や食料品等の生活基盤にかかわる値上げが消費マインドを急速に冷やしたことや、インポートブランド商品の価格上昇による客数の低迷もあり、年末年始商戦を中心に業績が当初の想定を下回る結果となりました。この第２四半期累計期間の実績及び足元の販売動向を踏まえて通期の売上高予想を修正いたしました。また、販売費及び一般管理費においては、人件費、店舗変動費の見通し、光熱費の費用増等を想定したうえで、第２四半期累計期間に計上した特別損失を反映した結果、営業利益、経常利益、四半期純利益における前回発表時の予想を修正いたしました。下期においては消費者動向を踏まえての商品構成及びプライシングの適正化を図り、接客応対と買上げ件数対策を強化し、販売力の強化に努めてまいります。

（注）本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後様々な要因により異なる可能性があります。

以　上